スにしたい」とリコーダー奏者・山本佳美さん。4月16日から第1・3㊋10時半、5回。1万2600円（入会が必要）。

田

たった。動期を駆は、活気らしぶりを自称す続けていの井村に作之と興味を人生そのと語る。第一部の『婦善哉』第二部の舞台の下町をクに思日金13時2回。670沼敬子）

仁義礼智信

教授③人の性は善か悪か／冨谷至・京都大教授＝写真＝が、孔子の思想とその受容の歴史を多角的に解説する。4月20日から第3㊏13時、3回。8820円（会員7875円）。京大人文研アカデミー共催講座。

跡。寺沢薫・桜井市纒向学研究センター所長は、県立橿原考古学研究所で長年その調査と研究に携わり、「纒向学」の提唱者でもある。「3世紀に倭国の中心は九州の伊都国などからヤマトに移った。こ

■「纒向学」事始

／寺沢所長②居館遺構からみたヤマト王権の成立／橋本輝彦主任研究員③纒向遺跡と邪馬台国論／森岡秀人共同研究員。4月13日から第2㊏10時半、3回。8820円（会員7875円）。（駒木麻実）

中之島

アベノミクスの問題点 35th 記念講座

■日本経済の真像

戦後類例をみないデフレが続く中、安倍政権は大胆な金融緩和、機動的な財政出動、民間投資を喚起する成長戦略を柱にした「アベノミクス」でデフレ脱却を狙う。

専門家でも意見が分かれる政策に対して、浜矩子・同志社大教授は「成長」戦略ではなく、既に積み上げた国富を国民全体でどう分かち合っていくのか考える「成熟」戦略の必要を訴える。グローバル経済の危機を見据えた対策の難しさを「上質なミステリーを読み解くようなもの」と表現する。アベノミクスの問題点とデフレ脱却のために必要な政策とは。専門の国際経済学の視点を踏まえて、日本経済再生について論じる。5月18日㊏15時半、3465円（会員2835円）。

中之島

生死の決定…延命策の功罪

■平穏死と胃ろう

11万部を超えたベストセラー『「平穏死」10の条件』の著者である長尾和宏・長尾クリニック院長（兵庫県尼崎市）が、高齢者医療の中で問題視されている「胃ろう」の功と罪について語る。胃ろうは腹壁に小さな孔を開け、胃に管を通して食物や薬を投与する人工栄養法。いったん造設し、中止すると死につながるというリスクがある。

家族が老衰や病気で口から食べられなくなった時、病院から勧められる胃ろうの提案にどう答えるべきか。講座「平穏死から考える『胃ろう』～その延命効果と生死の決定権」は5月25日㊏13時半、3150円（会員2625円）。会場は「アサコムホール」（中之島フェスティバルタワー12階）。

京都

幽遠と平易の妙

■トルストイ版老子を読む

ロシアの文豪トルストイは晩年、ロシア正教の教義やあり方に疑問を持ち、老子の教えに強い関心を持つようになる。モスクワ大学に留学中の神学者・小西増太郎と出会い、1982年から半年かけ『老子道徳経』をロシア語に共同翻訳した。

歌手の加藤登紀子さんの兄嫁で京都でロシアレストランを営む加藤智恵子さんは、店で開く読書会でそれを知り、有宗昌子・同志社大講師と共に1年かけて和訳し、出版した。「幽遠な老子と、トルストイの平易な言葉が魅力」と語る。講座では全八十一章をゆっくり読み進める。4月9日から第2・4㊋10時半、6回。1万2600円（入会が必要）。

京都

「欧州編」アテネから

古来、建築はあらゆる芸術分野を統合するものと考えら

の旅

とになる。「が、難しいことはさておき、旅行気分で未知な

京都

■きっと歌える

「歌が好きだけど、私にこんなは無理、声が出ないと、あきらていませんか」。関西二期会の果家・鹿島満美さんは「歌いと

■後半生への『徒然草』

吉田兼好は30歳前後で出家。50歳ごろに『徒然草』をほぼ書き終え、その後の20年余をなぜか一行の改文も残さず、兼倉末期から南

ロイヤルホテル最上階に
しま」がオープン。

最上階に広がる水と光の空間で味わう旬の和食

日本料理